



2024年3月期
第2四半期決算説明会

2023年11月22日

株式会社ジャムコ



JAMCO Vision 2030



技術と品質を翼に、快適で持続可能な未来へ

航空業界を基軸に培ってきた技術と品質を、先端技術とイノベーションにより進化させながら更なる事業領域の拡大を目指し、航空宇宙産業を通じた価値創造企業グループとして、快適で持続可能な社会へ貢献し続ける。

Always Fly Together with transforming our business by engineering evolution for a sustainable world

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Contents

SECTION 1 2024年3月期 第2四半期決算の状況

- 03 | グループ連結P/L
- 04 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 05 | セグメント別 売上高・経常利益-①(前年同期比)
- 06 | セグメント別 売上高・経常利益-②(前年同期比)
- 07 | グループ連結B/S
- 08 | グループ連結C/F
- 09 | グループ各社の状況 (2024年3月期/上期)

SECTION 2 2023年度の市場環境と進捗状況

- 11 | 2023年度の市場環境
- 12 | 2023年度 進捗状況
- 13 | 事業別進捗状況(航空機内装品セグメント)
- 14 | 事業別進捗状況(航空機シートセグメント)
- 15 | 事業別進捗状況(航空機器製造セグメント)
- 16 | 事業別進捗状況(航空機整備セグメント)

JAMCO CORPORATION

2024年3月期 第2四半期決算の状況

SECTION

1

- 03 | グループ連結P/L
- 04 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 05 | セグメント別 売上高・経常利益 ①(前年同期比)
- 06 | セグメント別 売上高・経常利益 ②(前年同期比)
- 07 | グループ連結B/S
- 08 | グループ連結C/F
- 09 | グループ各社の状況 (2024年3月期/上期)

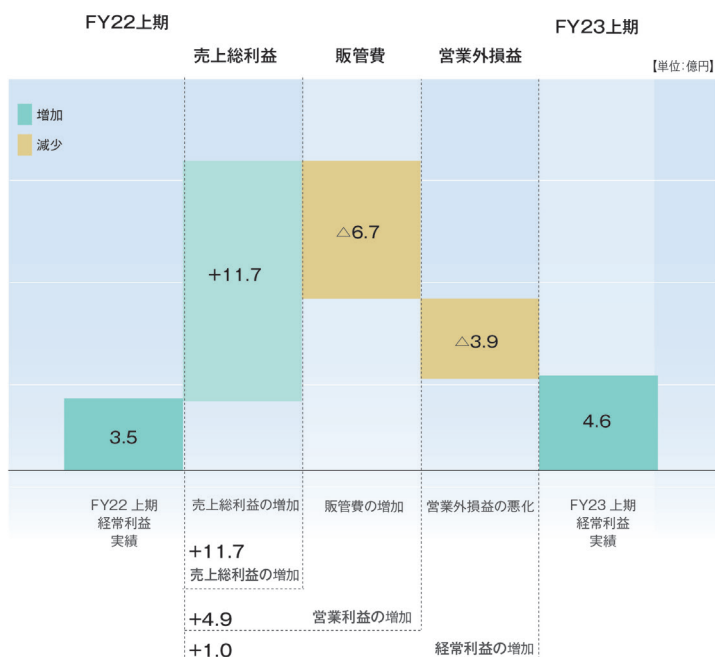
【単位:百万円】

	FY22上期 (実績)	FY23上期 (実績)	前年同期比 (増減)
売上高	17,042	27,243	10,200
売上総利益	4,075	5,247	1,172
販売管費	3,793	4,467	673
営業利益	281	780	499
営業外損益	73	△ 317	△ 390
経常利益	354	463	108
特別損益	37	△ 12	△ 49
税金等調整前 四半期純利益	392	451	58
親会社株主に帰属する 四半期純利益	655	960	305
1株当たり四半期純利益 (円)	24.42	35.80	—
売上為替レート (円/USドル)	131.50	138.69	—

グループ連結P/L

- 売上高は、前期170億円に対し、当期実績は272億円
- 経常利益は、前期3億5千万円に対し、当期実績は4億6千万円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期6億5千万円に対し、当期実績は9億6千万円
- 2023年度上期の売上平均為替レートは前期の1ドル131円50銭に対し、1ドル138円69銭

■ 前期比 +1.0億円



Point

- 売上総利益(+11.7億円)
 - 運航機数増加によるスペアパーツ販売の増加や為替レートが前期より円安で推移したことなどによるもの
- 販管費(△6.7億円)
 - 販売手数料の増加 △2.9億円
 - 人件費の増加 △2.0億円
 - 試験研究費の増加 △0.9億円
 - その他 △0.9億円
- 営業外損益(△3.9億円)
 - 支払利息の増加 △3.1億円
 - 為替差益の減少 △2.2億円
 - その他 +1.4億円

連結経常利益の前年同期比差異要因

- 売上総利益は、運航機数増加によるスペアパーツ販売の増加や為替レートが前期より円安で推移したことなどにより11億7千万円増加
- 販管費は、販売手数料や人件費が増加したことなどから6億7千万円の増加
- 営業外損益は、米国ドル金利の上昇により支払利息が増加したことなどから損方向に3億9千万円
- その結果、前期実績の経常利益3億5千万円より1億円の増加となり、当期実績は経常利益4億6千万円

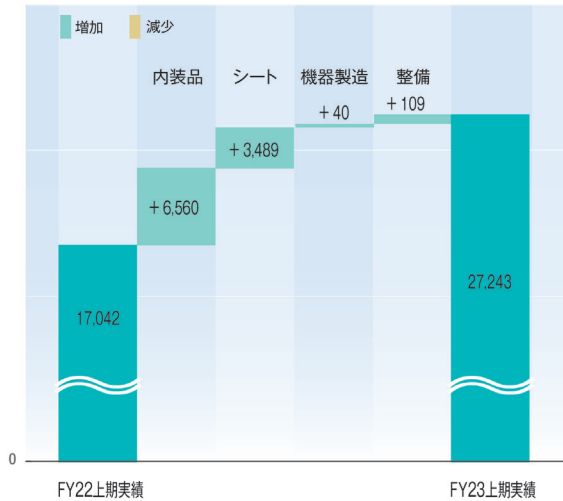
【単位:百万円】

	売上高			経常利益		
	FY22上期 (実績)	FY23上期 (実績)	前年同期比 (増減)	FY22上期 (実績)	FY23上期 (実績)	前年同期比 (増減)
航空機内装品	10,809	17,369	6,560	2,098	3,202	1,104
航空機シート	461	3,950	3,489	△ 1,696	△ 2,690	△ 993
航空機器製造	2,164	2,205	40	△ 101	△ 151	△ 50
航空機整備	3,606	3,715	109	52	102	50
その他	1	1	0	2	0	△ 2
合計	17,042	27,243	10,200	354	463	108

(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

売上高

【単位:百万円】

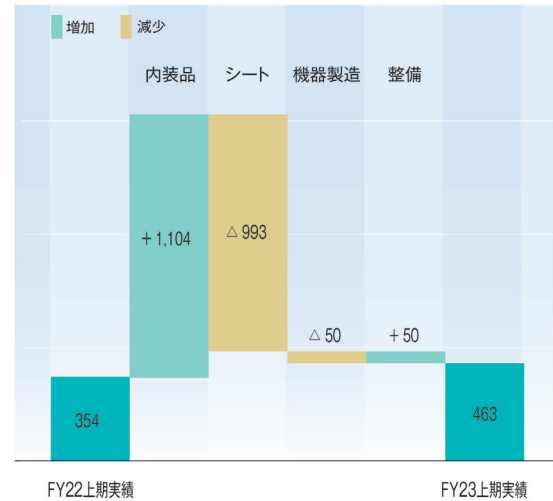


Point

- 内装品は、ボーイング787型機向け製品の出荷が再開したことやスペアパーツ販売が増加
- シートは、ボーイング777型機向けビジネスクラス・シート「Venture」の出荷開始により増加
- 機器製造は、熱交換器等装備品の出荷が増加
- 整備は、機体整備において完成工事が増加

経常利益

【単位:百万円】



Point

- 内装品は、スペアパーツ販売の増加に加え、外貨建て売上高の円安による効果などにより増加
- シートは、他機種展開に伴う初期費用の増加、米国におけるインフレーションや円安によるドル建てコストの上昇などにより悪化
- 機器製造は、原価高の影響などにより悪化
- 整備は、売上高の増加などにより増加

セグメント別 売上高・経常利益 (前年同期比)

売上高 (前期比増減)

- 内装品セグメントは、ボーイング787型機向け製品の出荷が再開したことや運航機数の増加によりエアライン向けスペアパーツ販売が増加したことなどから売上高は前期比で65億6千万円増加
- シートセグメントは、ボーイング777型機向けビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が開始されたことなどから、34億8千万円増加
- 機器製造セグメントは、熱交換器等装備品の出荷が増加したことにより4千万円増加
- 整備セグメントは、機体整備において完成工事が増加したことにより、1億円増加

経常利益 (前期比増減)

- 内装品セグメントは、スペアパーツ販売の増加に加え、外貨建て売上高の円安による効果などから11億円増加
- シートセグメントは、他機種展開に伴う初期費用の増加、米国におけるインフレや円安によるドル建てコストの上昇などにより9億円悪化
- 機器製造セグメントは、原価高の影響などにより5千万円悪化
- 整備セグメントは、売上高の増加などにより5千万円増加

【単位:百万円】

科目	FY22末 2023年3月31日現在	FY23 2Q末 2023年9月30日現在	増減	科目	FY22末 2023年3月31日現在	FY23 2Q末 2023年9月30日現在	増減
<資産の部>				<負債の部>			
流動資産				流動負債			
現金及び預金	8,334	8,260	△ 73	支払手形及び買掛金	4,719	5,805	1,085
受取手形、売掛金及び契約資産	17,615	15,471	△ 2,143	電子記録債務	2,997	4,307	1,309
棚卸資産	48,732	54,293	5,560	短期借入金	50,022	52,057	2,034
その他流動資産	2,639	2,996	357	1年内返済予定の長期借入金	1,060	60	△ 1,000
流動資産合計	77,321	81,022	3,700	前受金	8,374	8,459	85
固定資産				固定負債			
有形固定資産	11,590	11,587	△ 2	長期借入金	1,250	1,220	△ 30
無形固定資産	1,807	2,018	211	その他固定負債	9,128	8,980	△ 148
投資その他の資産	10,074	10,778	703	固定負債合計	10,378	10,200	△ 178
固定資産合計	23,472	24,385	912	負債合計	87,411	90,786	3,375
資産合計	100,794	105,407	4,612	<純資産の部>			
				純資産合計			
				13,383			
				14,620			
				1,236			
				負債及び純資産合計			
				100,794			
				105,407			
				4,612			

Point

- 受取手形、売掛金及び契約資産は、売掛金の回収により減少
- 自己資本比率 12.9% → 13.5%
- 棚卸資産は、顧客都合による納入スケジュールスライドに伴い増加

グループ連結B/S

- 資産合計は、受取手形、売掛金及び契約資産は、売掛金の回収により21億円減少。棚卸資産は納入スケジュールスライドに伴い55億円増加し、資産合計では46億円増加
- 負債合計は、円安によるドル建て短期借入金の増加などにより、33億円増加
- 純資産合計は、利益剰余金の増加などにより12億円増加
- 自己資本比率は12.9%から13.5%へ

【単位:百万円】

	FY22上期	FY23上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,097	774
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 673	△ 745
フリー・キャッシュ・フロー	△ 1,771	29
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,525	△ 816
現金及び現金同等物の増減	1,476	△ 194
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,651	6,764

Point

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産の増加があったものの、売上債権の減少や税金等調整前四半期純利益などによりキャッシュインフロー。

グループ連結C/F

- 営業活動によるキャッシュフローは、棚卸資産の増加があったものの、売上債権の減少、税金等調整前四半期純利益等などから7億7千万円のキャッシュインフロー
- 投資活動によるキャッシュフローは、7億4千万円のキャッシュアウト
- 2023年上期のフリーキャッシュフローは、2千9百万円のキャッシュインフロー

【単位:百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ
売上高	24,012	1,297	310	506	10,646	294	—	383	520	389	244	62
営業利益	1,280	△ 11	12	42	△ 451	△ 25	△ 2	81	3	12	18	1
経常利益	1,106	△ 8	11	40	△ 759	11	△ 2	81	3	12	18	1
四半期純利益	1,687	△ 5	11	26	△ 752	9	△ 13	70	1	5	14	1

(注)ジャムコシンガポールは、清算手続き中

グループ各社の状況

- 国内子会社は、新潟ジャムコを除き黒字決算となる
- シート事業の製造拠点であるジャムコアメリカは、米国におけるインフレや顧客都合による製品出荷スライドに伴うコスト負担の増加等により赤字決算

2023年度の市場環境と進捗状況

SECTION

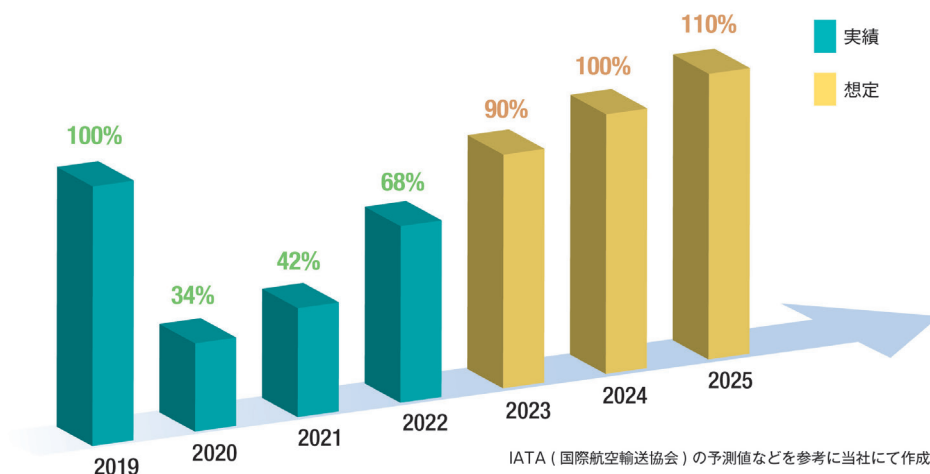
2

- 11 | 2023年度の市場環境
- 12 | 2023年度 進捗状況
- 13 | 事業別進捗状況(航空機内装品セグメント)
- 14 | 事業別進捗状況(航空機シートセグメント)
- 15 | 事業別進捗状況(航空機器製造セグメント)
- 16 | 事業別進捗状況(航空機整備セグメント)

● 2023年度の航空旅客需要は堅調な回復。

- IATA (国際航空輸送協会) 6月発表時点での航空旅客需要予測は概ねコロナ禍前の水準で推移。
- 米国は2019年度比でプラスに転じ中東・南米・欧州・アフリカも2019年度比90%前後へ回復。アジアは同71%と若干回復が遅れている。

2019年度を100%とした航空旅客需要の回復イメージ



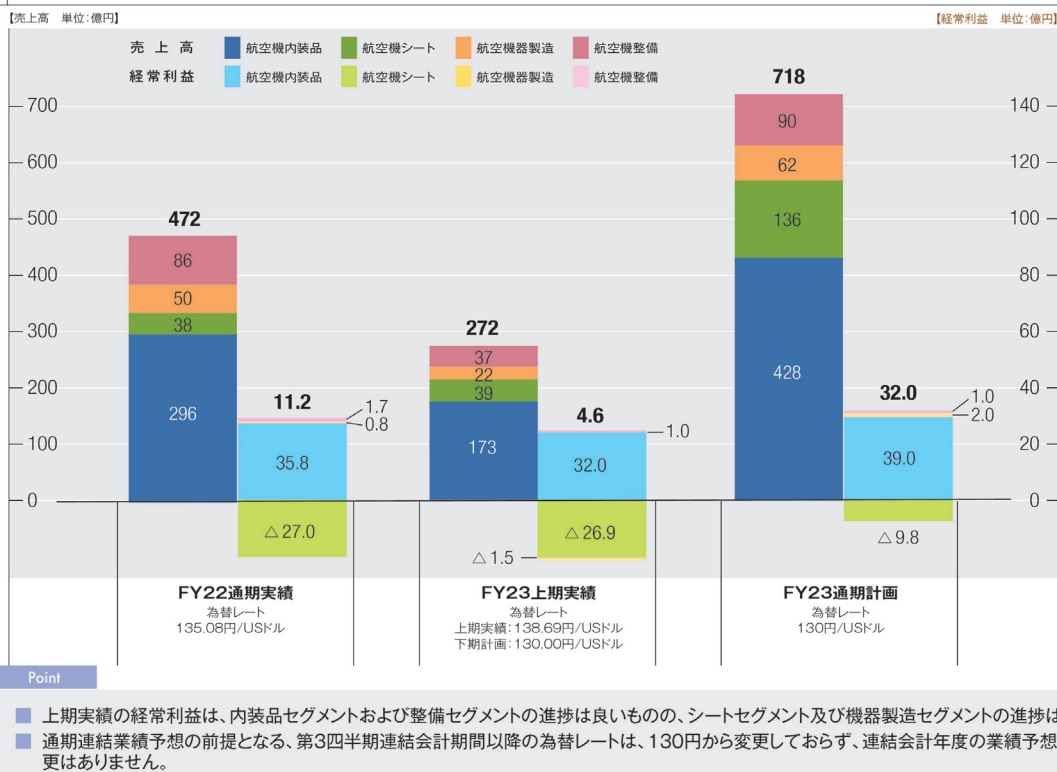
市場環境

- 当初、2023年度の航空旅客需要はコロナ禍前である2019年水準の90%程度迄回復すると想定していた。
- 今年度6月に発表されたIATAによる年度見通しによると、航空旅客需要は概ねコロナ禍前の水準で推移
- 地域別で見ると米国は既に今年度は、2019年度比で100%を超える回復、中東・南米・欧州・アフリカも90%超まで回復しているのに対し、アジアにおいては、特に中国の回復遅れにより71%程度の回復に留まっている

2

2023年度の市場環境と進捗状況

2023年度 進捗状況



2023年度 進捗状況

- 2023年度上期の決算状況は、Section1の通り、売上高は272億円（前期比60%増）、経常利益は4億6千万円（前期比30%増）となり、増収増益
- 一方で、今期は下期偏重の計画であり、通期計画に対する進捗率は売上高は38%、経常利益においては14%
- 上期の対通期計画進捗率はそのような状況であるが、利益面は、運航機数の増加に伴い航空機内装品セグメントにおけるスペアパーツ販売が増加したことや、為替レートが円安傾向で推移したことなどから想定を上回っている
- 下期は、航空機メーカーの増産計画に伴い、航空機内装品セグメントの売上高が増加していくとともに、スペアパーツ販売の受注も想定を上回った状況となっていることから、経常利益全体においても増加していく見通し
- 航空機シートセグメントは、米国におけるドル建てコストの上昇などにより経常損失が続いているが、下期においては原価見直しを進めているVentureシートの出荷が増加していくことにより赤字が抑制
- 通期計画は、下期の為替レートは130円から変更しておらず、通期の連結業績予想は2023年5月12日に公表したのから変更していない

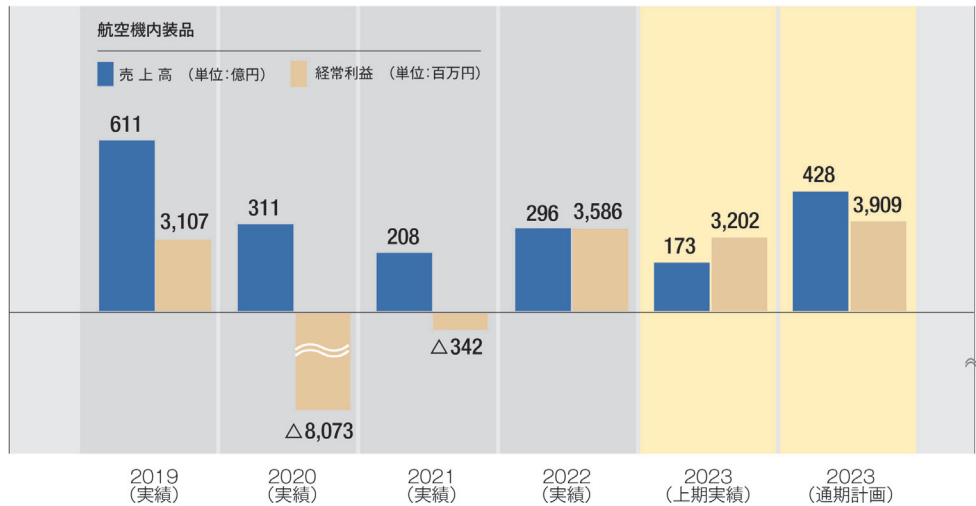
2

2023年度の市場環境と進捗状況

事業別進捗状況(航空機内装品セグメント)



- 運航機数増加に伴うスペアパーツ販売好調
- 円安による収益性改善に伴い、経常利益増加



事業別進捗状況(航空機内装品セグメント)

- 売上高は、通期計画428億円に対して上期実績173億円、進捗率40%
- 経常利益は、スペアパーツ販売増加に円安効果が加わり、通期計画39億円に対し上期実績32億円、進捗率82%

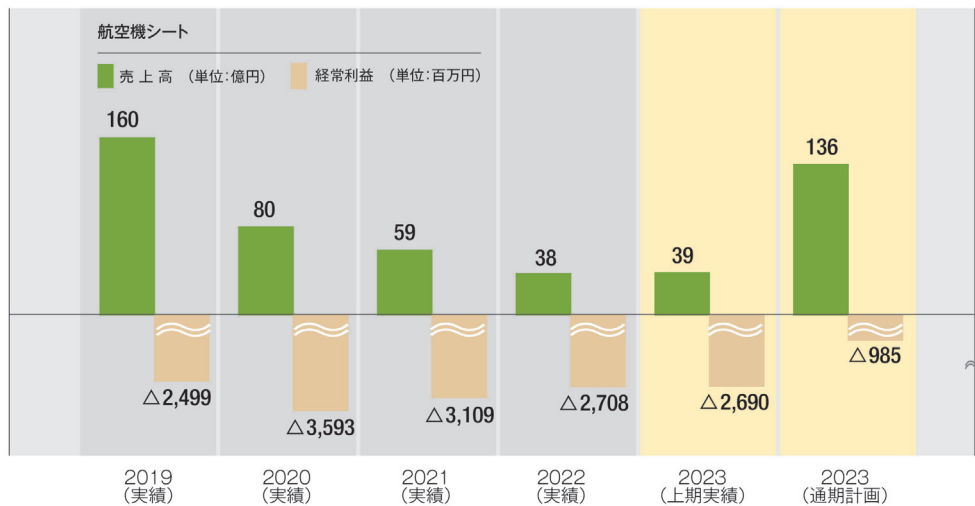
2

2023年度の市場環境と進捗状況

事業別進捗状況(航空機シートセグメント)



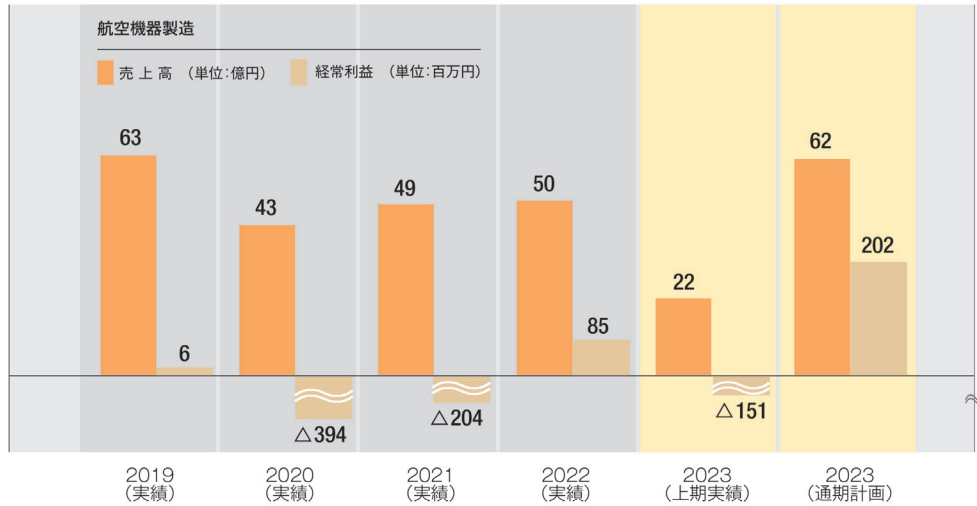
- Ventureシートの顧客都合による翌年度への一部出荷期ズレ
- 米国におけるインフレや円安によるドル建てコスト上昇
- 一部組立業務のメキシコ移管等のコスト削減策実施



事業別進捗状況(航空機シートセグメント)

- 売上高は、顧客都合による一部出荷の期ズレ等により通期計画136億円に対して上期実績39億円、進捗率29%
- 経常損失は、主な製造拠点である米国におけるインフレや円安によるドル建てコストが上昇し、工事損失引当金を積み増したことから通期計画9億8千万円に対して上期実績26億9千万円
- 一部組立業務、部材調達をメキシコへ移管する等のコスト削減策を実施しており、引き続き収益の改善に努める

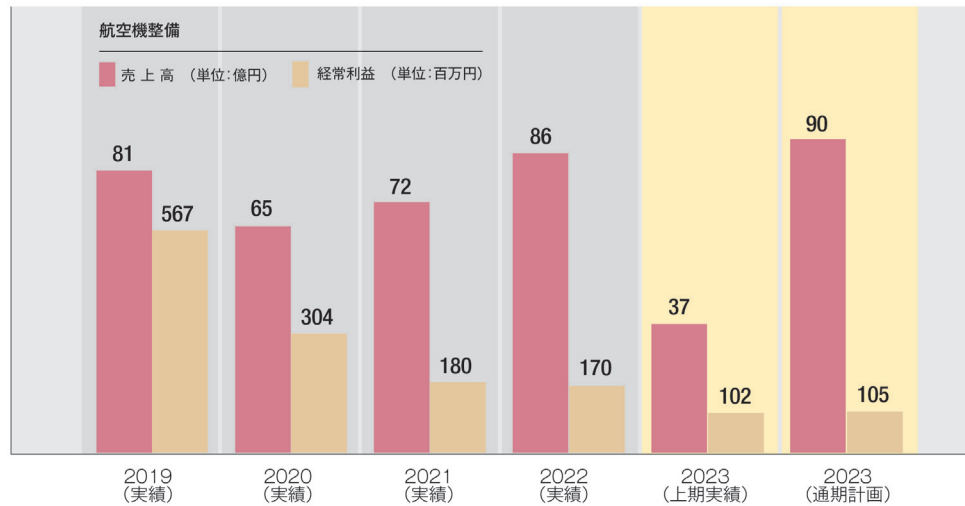
- 民間航空機エンジン部品等出荷減少
- 原価高の影響による経常利益悪化



事業別進捗状況(航空機器製造セグメント)

- 売上高は、民間航空機エンジン部品の出荷減少等により通期計画62億円に対して上期実績22億円、進捗率35%
- 通期計画では2億円の経常利益を見込んでいるが、上述の出荷減少に加え部材費や人件費等の原価高の影響を受け、上期実績1億5千万円の経常損失

- 部品入荷遅れによる売上スライド
- 部品販売増加による経常利益増加



事業別進捗状況(航空機整備セグメント)

- 売上高は、部品の入荷遅れなどにより機体整備やホイール等の工期が延びたことから売上がスライドし、通期計画90億円に対して上期実績37億円、進捗率41%
- 経常利益は、部品販売が増加したことで通期計画1億円に対して上期実績1億円